

福島のぶゆき国会日誌

【臨時国会 開会】

●ようやく臨時国会がスタートし、首班指名選挙が行われました！

21日、臨時国会が召集され、首班指名選挙で高市総理が誕生しました。



この間、一部報道の通り、麻生副総裁から有志・改革の会に対して連立に向けた協議の申し入れがありました。この1年間の少数与党の下での国会運営を見て、安定した政権の必要性を痛感していたため、高市総裁にも直接話を聞くなど、自民党幹部と真摯な協議を行ってまいりました。私たちはポストなどは求めず、ただ一つ連立の条件として企業・団体献金の規制強化を求め、私自身が具体案を示して自民党幹部と日夜を問わず協議をしてまいりましたが、結局自民党中央がこれに取り組む覚悟を示さなかったため、今回は政権入りを見送ることを決断し、首班指名では「吉良州司」と投票いたしました。



詳細は動画をご覧ください！

その際、先日合流した改革の会のメンバーは、首班指名で「高市早苗」と投票し与党入りすること強く希望して折り合えなかつたため、今後は改革の会と袂を分かち、元の有志の会の4名で行動を共にしていくことなりました。

今回の首班指名までの一連の動きは、政界再編・変動の第一幕にすぎないと考えます。数ヶ月後には第二幕がやってくるはずです。党派を超えて同志たちと連携を深めながら、次の大きな政局に備えてまいります。

【国会活動】

●衆議院選挙制度協議会で議論を行いました！

15日、衆議院選挙制度協議会が開催され、谷口将紀東京大学教授から選挙制度についてのヒアリングを行いました。谷口教授による新たな選挙制度の提案には、目から鱗が落ちるものもありました。



現在の多党乱立の状況を受け、小選挙区比例代表制の選挙制度を変えなければならない機運は、これまでになく盛り上がっていると思います。現下の政局と同時並行で、選挙制度抜本改革の議論を進めてまいります。

【記事掲載】

●月刊日本11月号に対談記事が掲載されました！

独立自尊の日本をめざし、権力と闘う言論誌『月刊日本』11月号に、「新しい政党政治の秩序をつくる」と題した自民党古川禎久衆議院議員との対談記事を掲載していただきました。古川議員とは昨年の同誌12月号で「55年体制」は歴史的役割を終えた」という対談を行っており、1年経った本号はある意味答え合わせになります。ぜひ購入の上、ご一読ください。

